

第196回

岩手朝日テレビ放送番組審議会

議 事 録

(平成28年3月)

2016.3.30

株式会社 岩手朝日テレビ

第196回 放送番組審議会議事録

1. 開催日時 平成28年3月30日(水) 午前11時～
2. 開催場所 岩手朝日テレビ3F大会議室
3. 委員の出席

委員総数 7名

出席委員数 7名

委員 長	村 田 久
委員	小 原 俊 英
委員	小 松 豊
委員	佐 藤 克 也
委員	そのだ つくし
委員	田 口 信 之
委員	畠 山 さゆり

欠席委員数 0名

会社側出席者名

代表取締役社長	富 永 健 治
常務取締役	長 生 正 広
報道制作局長	佐 々 木 貴
報道制作局専任部長	吉 田 幸 弘
大船渡支局長	矢 野 一
編成業務局長兼放送番組審議会事務局長	三 浦 茂 樹
番組審議会事務局	佐 野 尚

4. 議 題

(1) 社長あいさつ

(2) 4月単発番組・3月視聴率について

(3) 合評課題について

合評課題：テレメンタリー2016「誰がために街はある
～仮設飲食店街の苦悩～」

放送日時：平成28年2月27日（土）午後1時55分～2時25分

(4) 次回開催について

日 時：平成28年4月27日（水）午前11時～

場 所：岩手朝日テレビ3F大会議室

合評課題：「釜石に届いた吉報 20年ぶりのセンバツ

鋼鐵の意志（はがねのこころ）」

放送日時：平成28年3月19日（土）午後0時55分～午後1時25分

(5) その他

5. 概 要

合評番組

震災で中心市街地が津波の被害を受けた釜石市。市が再び同じ地区を町の中心として整備し、飲食店街を再建しようとしていることに対し、津波の恐怖を体験した店主たちから反対の声が上がっている。「安全で安心な場所での再建」を願い、立ち上がった店主たち取材し、震災から5年経つ被災地の課題を検証した番組

合評での意見

- ・飲食店の店主らの苦悩がよく伝わってきた
- ・ナレーションに風格が感じられ、番組に厚みが出た
- ・取材に偏りがあったのではないか
- ・番組内で語りつくせない部分は継続して取材をしてほしい

6. 議事の内容

- 三浦事務局長) 年度末のお忙しい中ご出席いただき、ありがとうございます。
本日の合評は、先月 27 日に放送いたしましたテレメンタリー-2016「誰がために街はある～仮設飲食店街の苦悩～」でございます。今日は報道制作から佐々木局長、吉田専任部長、そしてディレクターの矢野大船渡支局長が出席しておりますので、よろしく願いいたします。
それから、4月から弊社の体制が少々変わりました、番組審議会の事務局が変わることになりました。今まで大変お世話になっていた佐野が本日で事務局は退任ということになります。後任に編成事務局の編成部長の鈴木敦が担当になりますので、引き続きよろしく願いします。
今日は資料とかもろもろ置かせてもらっておりますので、確認をさせていただきます。まず、次第が1つございます。それから、単発の番組表です。それから、3月の視聴率のほうでございます。それから、2015年度の年度の視聴率の表でございます。そして、新年度の番組審議会の日程（予定）でございます。それから、BPOの報告ということで、冊子をお配りしておりますけれども、番組審議委員の皆様にもということで送られてきておりますので、お時間のあるときにお目通しいただければと思います。それと、新年度のタイムテーブルとDVDをお配りしております。
そして、あさって、4月1日から開局20周年の期間に入ることになりました。周年を記念いたしましてノベルティーを幾つか製作しております。そういうのを使ってどんどんPRしていこうと思っています。ご笑納いただければと思って配らせていただきましたので、よろしく願いします。
それでは、村田先生、議事のほうをよろしく願いいたします。

村田委員長) それでは、社長、ご挨拶を。

- 富永社長) 今年度最後の番組審議会となりました。全員出席いただきありがとうございます。
今年度は、特に番組で言いますと「スーパーJチャンネルいわて」が大きく数字を伸ばし、視聴率的には納得できたという結果だと思います。
数年間続けてまいりました子供番組「ゴエティーニョ」を終了したことは残念でしたが、早い機会に違った形でIATらしい番組を制作していきたいと考えております。
今ノベルティーをお配りしましたけれども、2日後の4月

1日、開局20周年の周年期間がスタートいたします。これまで育てていただいた皆様に感謝して、今までIATがやったことのないようなイベントや番組を企画しております。5月28日、29日の土日には、アピオで「I W A T E未来博」を開催いたします。テーマは、岩手の「未来」と「復興」です。大きなテーマを掲げたため、今フル回転で準備に追われております。

そのほか、特別番組や主催事業などいろいろ実施をしますので、ご期待をしていただきたいと思います。

最後に、ご報告ですけれども、現在報道制作局は報道制作部、アーカイブ室の1部1室でしたが、4月1日付で報道制作部を廃止して、報道部、制作部、アナウンス部を新設して、3部1室といたします。目的は、開局20周年を機に担当部署における権限と責任を明確にして、意思決定の迅速化を図ると同時に、柔軟かつ弾力的な体制を目指すものでございます。

また、現在報道制作部の下に大船渡支局がございます。本日来ております矢野が支局長ですけれども、4月1日付で釜石に支局を移転して、沿岸支局と改称して報道部の下に置きます。今までは、釜石から陸前高田まで報道部員1名と契約カメラマン1名で大船渡を拠点にカバーをしておりましたけれども、ラグビーのワールドカップ、あるいは橋野高炉跡の世界遺産登録など、釜石にニュースが多くあることから、釜石に報道部員、矢野になりますが、を配置し、大船渡の契約カメラマンと連携をとりながら岩手南三陸の取材の効率化を図ることが目的であります。以上です。

村田委員長) ありがとうございます。皆さんから何かご質問ございませんでしょうか。

なければ、事務局のほうから4月の単発と視聴率、お願いします。

三浦事務局長) 4月の単発番組と視聴率について資料に基づいて説明させていただきます。

まず、単発番組ですけれども、4月は改編のタイミングということもありまして、新番組等も掲載させていただいております。お配りしているこのタイムテーブルもあわせてごらんになっていただければ分かりやすいかと思います。

まず、4月3日です。日曜日11時55分から「ビートたけしのTVタックル」、これは月曜日の23時15分から放送しておりましたけれども、この4月の改編で月曜深夜から日曜の11時55分の枠に移動します。この枠でレギュラー放送になってきます。

それから、6日水曜日 21時、「警視庁捜査一課9係2時間スペシャル」です。これは、「捜査一課9係」のシリーズで、11年目のシリーズ物であります。今回の注目は、セミレギュラーとして野際陽子が出演をするということで、渡瀬恒彦が演じる加納倫太郎の亡くなった奥さんのいとこ役という設定で、より人間ドラマに磨きをかけていく内容ということです。

それから、11日23時15分、これも新番組になります。「橋下&羽鳥の新番組！（仮）」、「（仮）」となっていますけれども、「（仮）」が正式タイトルという、ちょっと変わったタイトルですけれども、12月に政界を引退した橋下が8年ぶりにバラエティー番組に復帰というところで注目を浴びるのかなと思っています。

14日木曜日20時は、木曜ミステリーです。「警視庁・捜査一課長2時間スペシャル」をお送りいたします。この「捜査一課長」は、土曜ワイド劇場のシリーズ物なのですが、この4月からはレギュラー番組としてゴールデンになります。

続きまして、21日の21時ですね、木曜ドラマになりますけれども、これも新番組です。「グッドパートナー 無敵の弁護士」であります。これは、法律事務所を舞台にして、弁護士たちが企業の理不尽に立ち向かっていくという内容になっておるようです。俳優の竹野内豊が10年ぶりにテレ朝系列のドラマに出演します。女優の松雪泰子がライバル弁護士という設定なのですが、実は元夫婦ということになっておるようです。

それから、29日になりますけれども、23時15分、これも新番組で「不機嫌な果実」になります。林真理子の不倫小説の連続ドラマ化になります。女優の栗原千明、それから市原隼人の大人の濃厚ラブストーリーということで、泥沼の不倫劇ということです。

そして、30日土曜日13時から「故郷への思い、音にのせて～復興支援音楽祭 歌の絆プロジェクト」をお送りいたします。これは、三菱商事と朝日新聞、そして岩手朝日テレビが主催する復興支援音楽祭の模様を番組化したものです。IATで制作しまして、BS朝日でも放送いたします。今日岩手県民会館で開催されますが、県内の高校の合唱部の歌声、そして葉加瀬太郎、そしてピアニストの西村由紀江さんの演奏で、会場を一体にして被災地を応援するという企画です。以上が単発番組になります。

引き続きまして、視聴率についてです。まず、3月の視聴率ですが、若干苦戦をいたしました。結果的には順位は全日帯で民放局内では2位という順位を獲得することができたのですが、苦戦したのは1週目で、めんこいテレビさん

がゴールデンタイムで伸ばしたり、岩手放送さんのスペシャル番組が好調だったり、NHKもかなり健闘しているというところで、IATの順位というのは下位になってしまいました。2週目に入ってからにはNHKの大相撲が高視聴率を続けてはいたのですけれども、IAT、スペシャル番組で踏ん張ったという感じでありました。特に16日水曜日の20時から「相棒」の2時間スペシャル、これはシリーズの最終回なのですが、これが16.4%、17日木曜日、木曜ドラマですね、「スペシャリスト」の最終回、これが15.6%でありました。

それから、ちょっと資料にはないのですけれども、震災の5年目になりました3月11日の編成ですが、テレビ朝日ネットの「スーパーJチャンネルスペシャル」が14時から放送になっておりまして、3.9%からのスタートなのですけれども、その後15時50分からIAT報道特番ということで、「被災地の今とこれから」という番組で、数字が7.1%を捉えました。その後またネットに戻って、18時15分からまた「スーパーJチャンネルいわて」ということで、これが10.2%ということで、まずまずといった感じで視聴されたかなと感じております。

これを受けまして15年度の視聴率に移ります。全日、ゴールデン、プライム、それからプライム2で民放2位になりました。全日に関しましては、昨年度開局初めての2位というのをとったのですが、昨年を引き続いて全日で2位をとることができました。順位では、各時間ともテレビ岩手が断トツの1位ではありましたが、全日、それからゴールデン、プライムでは、昨年度の差を縮めることができしております。反面、3位の岩手放送さんとIATの差も縮んでおるということで、新年度に関してはちょっと気を引き締めて迎えていきたいなと思っています。

今年度は、朝帯の「グッド！モーニング」とか「モーニングショー」が好調だったということと、それから昼帯も前年度よりもプラスになりました。そして、非常にうれしいのは、「スーパーJチャンネルいわて」が平均視聴率で8.9%ということで、前年比では1.1%プラスになっていることがありがたいというか、感謝したいなと思います。

それから、日曜日の「報道ステーションSUNDAY」、平均が9.8%で、前年から4.9%も大きく伸びたというところで、この時間帯の需要というのを感じました。

弱点というか、土曜、日曜の午前帯ですとか、土曜の午後帯というのが新年度の課題になるのかなと思っています。以上です。

村田委員長) ありがとうございます。単発も含めて何かご質問なり、ご意見ありませんか。やはり刑事物が多いですね、新番組はね。

三浦事務局長) 数字も結構とれてはおりますけれども、ちょっとタイトルが似通ったりしていて、混乱しなければいいなと思っています。

村田委員長) 変わり栄えないというのもあるし。

三浦事務局長) 大相撲が今回盛り上がっているものですから、やっぱりNHKの視聴率もすごくよくて、その影響が夕方まで引っ張られるというのは特徴としてあります。

村田委員長) それでは、本日の合評。今回「誰がために街はある」という、釜石の、呑ん兵衛横丁の取材もしたことがある畠山さんから。

畠山委員) 今回のテーマなのですけれども、毎回社会派のテーマをよく見つけてくるなというふうに今回も思いました。そして、見た後にどうしていいかわからないほど、ちょっと茫然としてしまいました。今回呑ん兵衛横丁がどうなるかというテーマだったのですけれども、何と書いていいか、胸が締めつけられてしまって、まず初期投資が180万で、月3万という条件で、新しい店舗を借りるというのは物すごくいい条件だと思うのです。現状復帰して退去するというのもすばらしい条件だとは思いますが。ただ、これが30代の人、30代とか若い人にとってはいいのでしょうかけれども、もとの場所が津波の起きた場所であるということ、そして呑ん兵衛横丁の主な方たち、そして一番リーダーの方が77歳という年でございまして、一体幾らぐらい月々の利益があるのかといたら、月に数万というふうにおっしゃられて、償却するのと命があれするのとどっちが先なのだという問題に直面している人たちの苦悩がひしひしと伝わってきて、BGMの重厚な感じとナレーションの重厚な感じと相まって、どうなるのでしょうかと終わりに言ったので、続きはどこで見られるのだろうか、見た私たちはどうしたらいいのだろうかという問題提起を視聴者の人にしたという部分なので、非常に番組としては成功していると思います。でも、見た後どうしていいのかが、ちょっと苦しくなって、それだけ非常にすごく番組としてはよくできたのだと思います。こういう問題を知らずにのうのうと過ごしている毎日に対して、やっぱり私たちが何をしたらいいのかというのはちょっと答えが見つからなくて、皆さんの

感想を楽しみにしたいと思います。以上です。

村田委員長) ありがとうございます。田口さん。

田口委員) 1年前にうちも釜石にホテルをつくりまして、たまに釜石に行くことが多くなっているのですけれども、行くたびに、周りに余り飲むところもないものですから、うちのスタッフを連れてあの横丁に私もたまにお伺いしているのですが、そういう中で非常に横丁の皆さんの頑張っている姿を思い出したり、ご苦労されている姿を思い出したりしたわけなのですけれども、再開発の問題というのを存じ上げなかったもので、そういう問題もあるのだなということを思いました。新しい再開発の場所のロケーションの問題ですとか、先ほどお話あったように年齢の問題だとか資金の問題だとか、いろんな問題が数多く残されているのだなということを改めて感じたということでございます。

しかしながら、それにしても番組の作り方が行政に対してかなり偏ったといいますか、一方的な視点になったのかなということを感じました。ナレーションの内容が、もちろんご苦労されている横丁の皆さん寄りでありまして、行政に対しては果たしてこれでいいのかみたいな問いかけが非常に多く感じられまして、ナレーションが竹下景子さんという非常にメジャーな方だったということで、彼女が言っている内容がより全国的な見方みたいな印象が強くて、やや、恐らくそうなのでしょうけれども、ちょっと偏りが見られたなという感じがいたしました。

市の方も話しながら泣いておりましたし、再開発のやり方、復興のやり方もいろいろあるのではなからうかなというふうに番組を見ながら感じたということです。ゼネコンの方が言っていたようなことになれば、それが正しいのかもしれないし、正しくないのかもしれない。長い目で見れば正しくないのかもしれないということで、もし正しかったとしても、あのやり方をやるといづれ決着するまでに時間がかかるのだらうなというふうにも思いましたし、いろんなやり方があるわけでありまして、まず手始めにいろんな再開発の案を出した市の方たち、このやり方もその一つなのだということも感じまして、総体的に横丁の皆さんのご苦労と、終わった後すぐ胸が締めつけられるような思いもしたのですけれども、考え方としては一方的な考え方を聞かされた感じも少し残っているということでございました。

最後に、番組とは関係ないですけれども、この土日、2日3日に北海道新幹線開通記念ということで、駅の滝の広場の

ところにラーメンの競演というイベントを考えておりました、北海道のラーメンと青森のラーメンと岩手のラーメンの競演を考えておりますけども、その中に番組の中でもかなり名前も出てきました「こんとき」さん、釜石のこんときさんもお呼びをしておりますので、そういう意味では復興の一助になっているのかなというふうに思いまして、よかったなということは何回も思いながら拝見させていただきました。以上です。

村田委員長) ありがとうございます。そのださん、お願いします。

そのだ委員) 後味が悪い番組だったのですけれども、すごくその中でも考えさせられる内容で、自分も漫画を描く時点ではなるべく行政側と被災者というか、大変な思いされている方々のなるべく中間に立った立場で描くように心がけているのですけれども、密着するとなると住民というか、現場の人たちの気持ちのほうに偏ってしまうというのがあって、これを思いっきりテレビに出してしまったなという、すごくはらはらして見させていただきました。

 すごく印象に残ったのが、やっぱり先ほども申し上げられたのですけれども、行政側の方々に対して遠回しにけんかを売っているような、そんな内容だったのですけれども、商工労政課の課長さんでしたか、平松課長さんがすごくぺらぺら、ぺらぺらしゃべっていて、涙を流されていたのも気持ちとしては同情する思いがあるのですけれども、彼はまだ何か言い足りないことがあるのではないかなと、そういうことがあって、その反面、すごく悪者に見えてしまって、かさ上げして、防波堤建って、グリーンベルトを立てて、かさ上げも、えっ、こんなものなのという、思わずスタッフの方もこぼれてしまったのですかね、このぐらいですかみたいな声も聞こえましたけれども、本当に見て、陸前高田とかそういうところとは全然違う、かさ上げとか、まちのつくり方とか、復興の仕方とか、何でこんなに差があるのだろうと思ひ、疑問を感じる場面でした。

 あとは、東北大の方の意見も取り入れて、思いっきり行政悪いなという。つくっている人のどういう基本でつくっているのだろうという。また絶対来る自然災害なのに、どういう対策練っているのだろうとか、そういうふうなことをこれから考えなければならないのだなというのを5年目にして出すにはすごくタイミングのいい番組なのかなと思いました。だから、本当にただ流してテレビを見るのではなくて、こういうものを逆に強制的に学校とかで流したり、もっと一般の人

に見てもらいたいなど。あとはもうみんなに考えてもらうしか、5年たってこのままですから、ないのだなと思いました。ただの番組にするのももったいない気持ちもあります。

あとは、呑ん兵衛横丁の人たちというか、新しく釜石道の土地に出るといふ計画もあるのですけれども、ここは多分誰も入らないで、よそから若い人たちが入って店出すのではないか、そのほうが手っ取り早いのかなという思いがあつて、逆に釜石に行つて開拓したいというよその人たちにもすごく刺激を与える番組なのかなと思います。

番組自体は、すごく成功したのかなと思いますが、ちょっとやっぱりどこの土地もですけれども、行政にけんかを売ってしまうのだなというところが、行政側の人たちもすごく一生懸命やっているのも見ているので、そういうところの番組も同じような、逆の視点でもできればつくってほしいなと思いましたし、あとは次の津波対策というのも本当にちゃんとこれから報道とか取材して、比べるわけでもないのですけれども、いろんな土地ないろんなところをもっと知りたいねと、行かないとわからない部分というのをテレビで取り上げてほしいなと思いました。以上です。

村田委員長) ありがとうございます。佐藤さん、お願いします。

佐藤委員) 私は、最初に全体の番組の流れで感じたことと、次に2つ目に番組にお願いしたい事項を報告したいと思います。

まず、ナレーションの竹下景子さん、非常にメジャーな方で、違和感なくよかったです。冒頭、呑ん兵衛横丁とはまゆり商店街の説明がありましたけれども、はまゆり商店街自体が41店舗あつて、一画に15店舗、それが呑ん兵衛横丁だということ。ちょっとびっくりしたのですけれども、当初、震災前は30店舗、呑ん兵衛横丁はあつたわけですけれども、それが半減しているということは、てっきりテナントの方が入っているのかと思つたのですが、ただあそこに出るに当たつても、結局営業してやっている方々がテナント営業だったので、義援金等全然もらえないで、自力でやっていたというのはちょっと、そういうような保証何もなかつたのだなというのは感じました。

主に組合長の菊池悠子さん、「お恵」というのは、ずっと岩手銀行が利用しているところで、出張で行くと必ず行く店なのですけれども、相変わらず元気にやっているな、おばちゃんというような印象を受けました。震災後、3月から12月まで休業していたということで、常連客の後押しもあり、今事業再開という話がありましたけれども、お恵さんのほうから、

前あった店に4年ぶりに行くと、本当に車で5分ぐらいの近いところなのですけれども、やっぱりそれだけの恐怖心が今でもあるのだなというのは感じましたし、あと土のうが積みまれているけれども、いまだに高潮があれば水があふれてくる。これ大船渡もそうなのですけれども、前店あったところは満潮といいますか、高潮のときには相変わらず水があふれているという状況なので、そういう状況であればなかなか、またフラッシュバックするのかなというような感じは受けました。

あと、はまゆり商店街の山崎健会長さん、この人は47歳ということで、お恵さんにとっては子供みたいな年齢の方なのですけれども、この方の印象を受けたのは、そこに出したのは国から言われたわけではないと、自分たちの、自分自身が決めて、自分が出たのだというようなことがちょっと印象に残りました。

あと、昨年1月に釜石まちづくり株式会社が出された公民連携の飲食店再建プロジェクト基本計画というの見まして、まさに建設予定地が呑ん兵衛横丁の跡のすぐそばだということで、お恵さんが言ったように、恐ろしい津波が来たすぐそばでやるのかなというのをまず感じました。ただ、先ほど平松課長の話も出ましたけれども、市側では、元あった場所に復活させたいと。あそこら辺余り物が建っていないですよ。

あと、平松さん、課長が言っている中で気になったのは、はまゆり商店街、42店舗あるわけなのですけれども、数十店舗が移転表明しているよと、それでは残りの人たちどういうふうに考えているのかなと思ったのです。予定しているのが20店舗ですから、要は半分移ってもらえばいいという考え方なのかなと。あと、ちょっと気になったのは役所の思いを押しつけることはない、頑張るぞと思っている方だけ来てもらえばいいのだというような、いや、みんな頑張るぞと思っているんじゃないのというようなことと、我々が全面サポートしていくということで、あのときアナウンサーの方が詰問風に分言したら涙ぐんだというような少しイメージを受けたのですけれども…ちょっと聞き方が迫ったのかなというような感じがして、「うーん」と思いましたけれども。

それから、東北大学の災害科学国際研究所の今村教授については、おっしゃるとおりで、いわゆる高台店舗とか、そういうのもできればいいのしょうけれども、釜石の場合、本当にリアス式海岸で、扇のようになっていてそれで減災にもつながったのですけれども、あそこ自体土地がないですよ。うちも住宅ローンの申し込みとか住宅の着工についてやっているのですけれども、まず土地がないのです。あと、大きい

土地はみんな新日鉄さんが持っているので、新日鉄さんから了解が得られなければ土地開発ができないというような難所であるので、そこら辺が釜石の難しいところなのかなというふうに私考えました。

あと、大手ゼネコンさんの社員の方のお話ですね、何かやくざの世界のインタビューしているような、周り暗くして、Xさんみたいな感じで話がありましたけれども、第三者的にゼネコンの方はああ言うのだろうなど。

高台移転、防潮堤を建設しなかったというのは、やはり大船渡、釜石というのはギネス級の防潮堤、防波堤があったけれども、あれだけの被害があった。若干減災はされたのでしようけれども、必ずしもそんなのにお金かけぐらいだったら、まちづくりに金をかけてくれという考え方のお客さんもいらっしゃると思いますので、これについては幾らやっても防ぎ切れるものではないと思いますので、市側がそういう判断を下したのであれば、私はそれはそれでいいのではないのかなと。

ただ、気になったのは、当初のころに民間が建って、土地を取得したり、すぐ建物を建てたというようなコメントもありましたけれども、やっぱりここら辺の市側の対応、規制とか区画整理したらよかったのではないのかというような話もありましたけれども、多分ドタバタで、3.11以降1年ぐらいは、その結果、山田町でああいう輩が来て食べ物にされたところもあるというので、ここら辺は一つ反省すべき点なのかなというように。

あと、この移転の計画について、はまゆり飲食店街の会長の山崎さんは、自分は移転しないと。移転先では、防音装置とか深夜営業許可がおりないというようなことを言っていましたけれども、やっぱり今ある商店街の方々の仕事の内容をしっかり分析していないのかなと。そういう方々が行けるようなお膳立てをして、いらっしやいというならわかるのですけれども、行きたくても行けないのかもしれない。あと、お恵さんのほうは、年も年だから、ぐあい悪くなったら金返せないというように。

あと、市主催の個別説明会のほうですけれども、お恵さんも自分は組合長だからとりあえず行ってみるというような話でしたけれども、行ってみたら市の個別説明会と言うけれども、説明するのが市職員ではなく建設を運営する建設会社だというようなところでまず面食らったのかなと。経費についてはこのぐらいかかるのでしょうかけれども、実際呑ん兵衛横丁の人たちが言っているとおり、そんなにもうかるものでもないですし、そういうことでは無理なのかなと。その後行われたはまゆり飲食店街の定時総会、ここでよく勉強されてい

る方々、はっきりを物を言われる方いらっしゃいましたよね。市の事業が民間に委託した場合にはその事業はグループ補助金の対象とならない。ここら辺が非常にネックになるのだろうなど。その中のコメントで、市はもう民間に丸投げしているのだよと、この移転計画は市役所のための計画ではないと、一般の人が入るための計画だというようなコメントも出ていましたけれども、市の提案により残る人、移る人、商店街は分裂していくと。誰のための計画かと言っていましたけれども、呑ん兵衛横丁、30から15になって、今回の移転で半分になれば、多分なくなっていくのだろうなどというのがまず思いました。お恵さんは看板やらないと言っているけれども、多分そういう問題でもないのだろうなどというのを感じました。

通して、私のほうからこうしたらいいのではないかなというのを今からお話したいと思います。番組全体の流れとかナレーター、竹下さんはよかったのかなと、違和感なく入ってきました。

まず最初にちょっと気になったのは、番組で、冒頭の流れの中で、1つの番組の流れをまずおさらいしましたよね。あれ要らないのではないかなと。1時間番組とか長期番組だったら必要でしょうけれども、30分、コマーシャル入れれば実質20分ぐらいの番組の中で、もっと取り上げてほしい切り口があったのではないかなと感じました。

あと、通して、呑ん兵衛横丁は有名なので、呑ん兵衛横丁のお恵さんの目線の意見が中心だったのがちょっと気になりました。はまゆり商店街のほうが42店舗あるわけですから、そのうち15店が呑ん兵衛横丁でしたので、それ以外の方の飲食店街の方っていらっしゃるわけですよ。その方々の取材も欲しかったなというふうに感じられました。

あと、市主催の個別説明会の中でも、当日課長さんいたのです。後ろでうろちょろしてスマホをいじっていたりしていたので、直撃インタビューで、どうなっているの？というような取材も必要だったのかなというふうに感じました。

あと、市長の話もいろいろ出てきて、いわゆる公民連携の計画ですので、釜石市長へのインタビュー、どう考えているのだと。首長が動けば物事動いてきますので、やっぱり野田市長のインタビューが欲しかったなど。皆さん不満は言っているのですけれども、それで何か終わった、実際は違うかもしれないけれども、今回の計画の問題点とか市民の不満、疑問点をちょっとぶつけてほしかったなどというのがあります。再建計画を民間企業へ何で丸投げしたのかとか、先ほど言ったように民間企業に丸投げした場合にはグループ補助金の対象とならない。市主催の個別説明会の運営の問題とか、幾つ

か問題を提起する部分があったので、そこら辺ちょっと市長にぶつけてほしかったなど。

あと、反対、反対、市の計画は悪いという目線でしたけれども、市の担当者からは十数店舗、移転に承諾しているよというような発言ありましたよね。であれば、移転承諾した方々の取材も、一方的に……番組で怖いのはそのとおりに誘導されてしまうので、実はこうだったというのもあっていいのではないかな。

あと、はまゆり飲食店街というのは期限付きの商店街でしたよね、たしか。であれば、いつまでが期限なのか、それ以降どう考えているのか。ロードマップってあるのでしょうかから、今回の移転計画断ったらどうなるか含めて、ちょっと先が見えないなど。期限付きで仮設商店街であるのであれば、その期限っていつになるか、あとその期限も含めてどうしていくのか。エンディングで、みんなで団結してやっというふうに、ちょっと尻切れトンボのところがあって、先ほどちょっと消化不良といいますか、ではどうするのというのがあったので、その辺の持っていき方を番組として、短い時間ですので、なかなかまとめるの難しいでしょうし、正解答というのではないのでしょうかけれども、番組の持っていき方として最後の結論のところはもうちょっとあってもよかったのではないかなというふうに感じました。私からは以上です。

村田委員長) ありがとうございます。小松さん、お願いいたします。

小松委員) 順を追ってお話をさせていただきたいと思います。

タイトルのほうは「誰がために街はある」ということで、「仮設飲食店街の苦悩」ということで始まるのですが、それでナレーションのほうに竹下景子さんということで、非常に淡々と、30分通して非常に違和感なくというか、すごく絵にマッチしたようなナレーションで、非常に評価してもいいのではないかなというふうに私は思いました。

絵のほうでは、楽しそうに会話をしたり、飲んだりしている市民の方たちの風景と対照的に、店主の方々はやめるとか、あと廃業するとかというようなマイナスコメントが入ったりとかして、その辺のアンマッチしているようなところがすごく最初の入りとしてはつくり的にはよかったのではないかなというふうに思っています。

私、全体を通して、番組のつくりというより内容にどうしても入り込んでしまっていて、番組についてこうしたほうがいいという気持ちになかなかなくて、今回は非常にそういっ

た意味では批評しづらい番組でした。

つくりとしては、はまゆり飲食店街の組合長の菊池さんと、あとバーのマスターの男性の方が、2人がメインで展開していく。ナレーションの方でそれをフォローするというような番組になっていたかというふうに思います。それ自体はわかりやすくてよかったのではないかなと思っております。

再三お話しされましたとおり、市役所の平松課長さんが現場のところに行って、頑張ってくれてくれる人でやるのが基本というふうに、すごく突き放したような言い方というか、裏を返せばついてこられない人は別に乗ってこなくてもいいみたいな、そういうふうなニュアンスが込められていて、すごく悪人に見えるというお話ありましたがけれども、何となくそういうヒールの役になってしまったのかなと思っています。あそこでちょっと涙ぐむシーンがあるというのは、もしかしたらこの課長さんも本意ではないよというような気持ちなのかなというところもちょっと垣間見えたところもあります。

あと、大手ゼネコン社員とか、名前を出さずにコメントをもらったところがありました。大手ゼネコン社員という方だったのですけれども、市を暗にというか、批判しているようなコメントがありました。その一方で、個別説明会に菊池さんが行ったシーンがありましたけれども、あそこで席に座って封筒をちらっと見たときに何か、これちょっとオフレコだと思うのですけれども、恐らくダイワハウスさんじゃないかなというマークがちらっと見えたのです、赤いマークがですね。もし隠すのであれば、そこもぼかすとか、3回ぐらいちょっと見えたので多分恐らく間違いないと思うのですけれども、もし隠すのであれば徹底して隠したほうがいい。私みたいに2回も3回も見る人はいないと思うのですけれども、念のためそのようにしたほうがいいのではないかなというふうに老婆心ながら思いました。

あとは、先ほど佐藤さんから話ありましたとおり、実はこの個別説明会は市役所ではなくて、民間の建設会社ですと言ったにもかかわらず、さっきの平松さんがちょろちょろ動いていたというのが私もそこが気になりました。

あとは、最後のエンディングのところ、ネオン街のところのネオンがずれている絵があったのですけれども、それはすごくこの状況を反映しているというか、失われつつある商店街を意味しているのかなと思って、映し方としてはよかったのではないかなというふうに思っています。

結局番組自体、伝えたかったのは何かというところを考えると、1つは市の復興事業のやり方が間違っているのではないかなというところと、あとはもう一つは横丁の店主さ

んたちは進むのもしんどいし、退くのもしんどいよというようなことだと思うのです。ただ、今後の方向性の示唆というところがちょっと欠けていたのではないかなというふうに思っていて、そういった意味では30分短かったかなという、1時間にしてももっと詳しく掘り下げて、今後の民間で何ができるかとかというところの話があってもよかったかなというふうに思っています。以上です。

村田委員長) ありがとうございます。小原さん、お願いします。

小原委員) ほとんど言い尽くされましたけれども、まずタイトルを見て、「誰がために街はある」ということで、これを見たときにはどういう内容なのかなと思いましたが、全部見終わって、非常にタイトルが意を得ているなというふうに思いました。私は、完全に番組に誘導されたのかもしれませんが、市の対応のまずさといいますか、ひどさといいますか、それがすごく先に立ってしまいまして、小松さんと一緒に、番組の評価よりもそちらのほうにかなり引っ張られてしまいました。

震災から5年が経過して、復興半ばでありますけれども、中にはこういうケース、ほかにもたくさんこういうケースあるかと思えますけれども、それをまず素材として取り上げたという部分は非常に良かったのかなと。

それから、全体的な構成も、それから先ほど皆さん言っていましたけれども、ナレーションの竹下景子さんの非常に落ちついた、風格があるナレーションで通したという部分は非常に良かったのではないかなというふうに思います。

番組の中で、非常に苦悩されている店主の皆さんの話ありましたが、あの方々は被災で苦勞されて、そして仮設で再開して、また苦勞されて、今度出ていけと言われて、本営業でまた苦勞されているということで、本当に苦勞の連続だというふうに思います。それが片方であって、行政の対応ということになるのですが、それがまさしくタイトルどおり、誰のための計画なのかということで、象徴されているのかなというふうに思います。

私は、はまゆり商店街と、それから呑ん兵衛横丁さんの関係、そのところが、番組の中ではいろいろ、文言では出ていましたが、最初やっぱりちょっとわかりづらかったのかなと。呑ん兵衛横丁さんが何軒あって、先ほどどなたか言っていましたけれども、何軒になってしまって、それが仮設で全体とすれば何軒で、その中で呑ん兵衛横丁さんが何軒で、今度次の新たなところに行くのには、今のところ何軒ぐらい

出ていますよみたいな、全体像がわかるような何かがあってもよかったのかなというの1つ感じました。

それから、途中で行政のまずい対応の説明をした平松課長さんがインタビューで詰まるシーンがあったのですが、実は涙も流していないし、詰まってすぐ平常に戻って、またインタビューし出したというのは、どうも違和感があったなど。もっと目頭が潤んでいるとか、顔が紅潮しているとか、そういうのがあってもよかったのではないかなど。一瞬でしたよね、詰まるのが。すぐまたもとに戻ったから、どうも、2度ほど見たのですが、これちょっとおかしいなと思って、というところが私はすごく気になりました。

それから、最後ですけれども、2月末にたしか申し込みの締め切りだということで、もう既に申し込みが締め切りになっていると思うのですけれども、これも既にある程度の結果が出ているのかもしれませんが、それが非常に気になって気になって、消化不良と先ほどどなたか言っていましたけれども、どうなったのかなとすごく気になって終わったかなというふうに思います。私からは以上です。

村田委員長)

ありがとうございました。

これは、非常に難しい合評課題であったと思うのです。視聴者にとっては、これはわかりづらい内容で、どうみんな感じたのかなということでしょうけれども、僕ここで思ったのは、制作する側、要するにこういう番組をつくる側の取材のあり方というのは何だろうかなと思って、この番組を見てふと思ったのです。もちろん我々の番審のあり方もそうですけれども、この内容を意見するのか、それとも番組のつくり方を意見するのか。我々番審というのは、内容よりもつくり方にいろいろ言わなければならない立場だと思うのです。そういうふうに置いて、この「誰がために街はある」というのは、非常に僕は難しい課題に手をつけたという。ただ、難しい課題に取り組んだというのは、あえて挑んだという、そういう姿勢を僕は評価したいのですけれども、どうも内容がばらばらで、見る側にとってどう見たらいいのか、どう評価したらいいのか、ちょっと迷う番組になってしまっている。というのは、視聴者というのは取材の内容から酌み取って、取材の意図はどこにあるのかという判断しなければならないことだと思うのです。問題はそこなのですけれども、大まかに言うと飲食店再建ゾーンに絡んではまゆり仮設飲食店街の方々と行政である釜石との対立なのです、はっきり言って。それをこの中でうたっているつもりでしょうけれども、これそのださんがさっき言いましたけれども、やはり取材する側

は中間に立たなければならぬと思うのです。どっちにもつかないで取材しないと。この番組ずっと、僕も2回ぐらい見たのですけれども、どうしてもやっぱり偏ってしまっているという。偏っているということは、やはり取材が住民側に足の軸を置いているということにしか言えやしません。

それで、気になった点なのですけれども、飲食店街の仮設の人たちの話というのは大体2人ぐらいに絞って取材していますね、お恵さんと、それから理事長の方とか。ではなく、飲食店の方、ある程度多くの方に意見を聞くべきであったと思うのです。どういう意見があるのか。それで、市の再建ゾーンに賛成するのが十数軒ある、42戸のうち。この十数軒賛成なら、なぜその賛成する方にインタビューでもとらないのかな。これ一つも入っていない。これは、制作サイドの取材するという意味ではあってはならないことです。これを外すということは、片手落ちというより、偏っているとやられても仕方がないと思うのです。

それから、再建の説明会ですけれども、これは市からの報告でなく民間企業の建設運営管理者が出て、説明していましたね。そして、やっぱり一部の方は、これは民間に丸投げだと、もちろん見たときはそう思うのです、我々。ああ、これ丸投げかなと。では、なぜ市のほうに突っ込んだインタビューできないのか。課長でも誰でもいい。では、何で今日、市の方が出てきてここの場で補足説明なりしないのかという、そういうインタビュー、もし断られたら断られたというふうにして、それを番組に出すべきであると。市のほうにインタビューしたけれども、やっぱり断られましたという、それはやっぱり1つ入れないと、これはまるっきり片手落ちになってしまうのではないかなと僕は思ったのですけれども。

結論の出ない番組なのですけれども、どうもチグハグであって、本当に基本的に制作というのは何をするのか、大きく言うと報道のあり方までも批判することになるのですけれども、そういう大切な方面というのが欠けている番組だなというのが非常に強く感じました。

飲食店再建ゾーンの映像やりながら、いろんな高台のかさ上げとか市民の安全性なんていう、いろいろ問題をうたっています。復興計画にはまだまださまざまな要望なり意見なりがあるはず。でも、これといった解決策というのが今出ていない現状ということでしょうね。そういうのをぜひこの番組で終わらないで、呑ん兵衛横丁なり、はまゆり仮設飲食店の内容を追跡取材して、明らかにして、パート2みたいな形で出さないと、視聴者は何か消化不良というか、だから今後の問題、追跡調査をきちんとして、そういう番組をつくるとい

うことは視聴者も期待しているのではないかと思うのです。はっきりしたこうだとも言えないですけれども、難しい課題は課題なのですけれども、難しいからといって片手落ちではだめだということ、ちゃんと立ち位置をきちんと決めてやってほしいなど。行政サイドがいいとか、行政サイドが悪いなんていう批判でなく、これ見るとまるっきり判官びいきみたいに、呑ん兵衛横丁の人たちは大変だな、お金もなくて大変だし、延期もないし、何もなくてという、そういう一面しか見られないのです。そうではなく、もっと切り込んだ問題点があるはずなのです。その辺が一つも出ていない。上面だけさあとなぞるような取材では、こういう問題をやるにはちょっと不足だなという、もうちょっとリサーチなり取材内容をきちんと把握しながら番組をつくらないと、「誰がために街はある」と、僕はこのタイトル、余りにも大げさだと思う、はっきり言って。これ見たら「誰がために鐘は鳴る」という映画があったのですけれども、それをふと思い出したりしましたけれども、そういう意味で今後まだまだ、復興はまだまだですので、そういう意味でもこの問題点はパート2として追ってほしいというのが僕の願いとして終わりにしたいと思います。

あとは何か皆さんのほうから意見なり、言い足りなかったことがあればどうぞ。

佐藤委員)

やっぱり不安はあるのではないですか。震災復興に携わっている人が減ってきているので、ほかの地域の仮設商店街とか呑ん兵衛横丁も減ってきているのです。だから、今設備投資して、お恵さんは77だから、あと5年くらいでしょうけれども、ほかの被災地や何か、テレビ番組見ていると減っていると。あともって二、三年か何年、その中で新たなことできるのかという不安があるのではないかなと私は思うのです。だから、あと、あそこはイオンのすぐそばですよ。あそこで呑ん兵衛横丁というのは本当に成り立つのかなと。ファミリーが集うところで、そのゾーンに呑ん兵衛横丁まで移すのかなというところがあって、やっぱり呑ん兵衛横丁ですと、あるところで周りにまた人が住んでいますので、ちょっと飲んでいこうかとなりますけれども、あそこは周りにそんな職場があるわけではないし、市役所と離れたところありますよね。導線があそこ余りなくて、建物もないので、お客さんのことを考えれば多分、それじゃなくても減っている中であいう呑ん兵衛横丁をやりたいのだったら、今のところがいいのか、いつまで使えるのかなというのがちょっと、被災地になったりしたときに、山田の飲食店街のすし屋のおやじなん

かも、ここでいいのだと、家賃取られないし、幾らか設備に金使ったけれども、売り上げ即自分の利益になる。従業員も全部家族ですから。そういう点で、この場でできるだけ長くやりたいというのがそのすし屋の親方の話でしたので、なかなか難しいのだろうと。客が減って、人口減っていますからね、沿岸被災地は。

いつとき、3.11 過ぎてからどんどんチェーン店がわあっと来て、養老乃瀧に行くのも予約しなければ飲みに行けなかった状態ありましたけれども、今はもう閑散としてきていますよね。だから、難しいのかなと。ここの呑ん兵衛横丁って決して安くないのです。1 回行けば四、五千軽く取られますから。そうです、そうです、安くないですよ。チェーン店のほうが二、三千で済むのです。だから、そういう点でお客さんの入りというのは徐々に減っていくのかな。3.11 の前の呑ん兵衛横丁、出張したとき、たまに「お恵」に行ってみるか行っていますけれども、そんなに飲み食いしません。簡単に四、五千飛んでしまうので。時代の流れからいえば、お母さんたちみんなわかっているのだと思うのです。今ならあそこでもいろんな人が来てくれるし、被災地に来たということで呑ん兵衛横丁の看板出されていれば来てくれるのだけれども、あそこからまた 15 カ店のうち 7 とか減っていったら、ますます薄くなってしまいますので、なくなります。そういうのをわかっているのではないかなというのが感じました。

佐々木局長)

いろいろ貴重な意見ありがとうございました。細かい点は矢野がお話しすると思えますけれども、自分のほうから一言。

今回の番組、いろんなご意見頂戴して、いいという部分もあれば、おかしいぞという部分もあったり、そもそも作り方がどうなのだというご意見もあって、非常に参考になりました。

今回はどういうところが、結果的に取材ができなくてこういう内容になってしまったということもあるかもしれませんが、今回つくる上で考えたことは、国とか県とか市の復興計画というのがやっぱり住民本位になっていないというのが全体的にどの市町村に対してもあるというのが多分見てとれると思うのです。そこの部分で、特に釜石の飲食店街については、釜石が当初計画していたものを、人の流れや 3 年たって変わっていくもの、当初の計画から見直さなければいけないものも当初の計画どおりに進めてしまっているというところに注意を促したかったということと、あとは計画を立てていく段階でそこに暮らしている人の気持ちとか考えに寄り添って計画を立てていってほしいということを理解してもらいた

いなというところで作りました。ただ、舌足らずな部分だとか、もちろんいろいろご指摘の部分もあったとは思いますが、それはまた次の番組づくりに生かしていきたいと思いますが、被災地取材をするとどうしてもそういう、例えば釜石のようにかさ上げも何もせずに現在のところで建てる、こういった問題がある。一方で、陸前高田のように巨大プロジェクトで16億円、かなりのお金をかけてかさ上げして、ではそこに入る人がいるのかという問題もあるのです。被災地12市町村によってそれぞれの復興のしぐあいか、住民が求めているニーズとか、それから起きている課題等も変わってくるので、そこをどういうふうに取り取るかというのはいつも迷いながらつくっているというのが震災報道になります。

いずれ気持ちとしてはそういう気持ちで現場とともにつくり上げようとしたということではありますけれども、ご指摘のとおりいろんな種々猛省はあったかと思しますので、真摯に受けとめて次の番組づくりのために生かしてまいりたいと思います。

あとは、現場の矢野ディレクターに話してもらいます。

矢野
ディレクター)

今回制作させていただきました矢野でございます。皆様から本当に貴重な意見ありがとうございました。

仮設店舗っていつまでできるのだと、あと2年です。あと2年でもう退去しなければいけない状況になっています。その中で、お恵さんだったりとか、山崎会長だったりとかと知り合いになっていろんな話を聞いていったうちに、自分の中でちょっとおかしいなというようなところで、ご指摘もありましたように、確かに中立的な立場で本当に取材をしたかと言われますと、そうでなかったかもしれません。その点につきましては反省いたしまして、今後引き続き密着取材をしていきたいと思っております。

現状で今あそこの新しい本設の店舗のほうに行く横丁さんはゼロ軒です。ゼロ軒になりました。はまゆり飲食店街からも2軒しか行きません。

佐藤委員) 十数店舗というのは。

矢野
ディレクター)

結局そのときは、平松課長は十数店舗というふうに声が、行ってみたいなということだけであって、正式な契約は結んでおりませんでした。市のほうは困って、新規産業ということで、新規にやりたい人もいいですよと、こういう話になり

まして、今お母さん方、組合長、皆さん怒っています。ただ、いろいろ山崎会長なり、お恵さんのほうで案を出して、何とかして、みんなでもう少し頑張っていこうというところを今計画しているので、その辺は本当にこれからも引き続き密着取材はしていきたいと思います。

矢野
ディレクター) 市長のほうのインタビューなのですが、お任せでした。下に任せているからというところで、正直、僕の中では涙が出そうになりました。本当にいいのかなという。それを本当に流してしまうことによってもどうかなという部分もいろいろありましたし、本当に行政で最初の計画どおりでそのまま行ってしまう、本当に大丈夫なのかなというのもあったので。

矢野
ディレクター) 口頭、ペン取材ですから。

佐々木局長) 要は逃げたわけ。

矢野
ディレクター) はい。ペン取材です。

そのだ委員) 行政さんのほうも暗い部屋で音声変えてやってもよかったです。

矢野
ディレクター) お願いしました。商工労政課の方に、応援職員の方にお話を聞きたいとアップを入れまして、応援職員で今旭川から来ていただいている方がいらっしゃったのですが、ごめんなど、カメラ回らないところでいろいろ言ってやると、おかしいよと、はっきり言っていました。そういうのもあるので、やはりいけないことだったと思いますが、その中立というところを、どうしても偏ってしまった取材してしまっただけで密着したことによって、そうなってしまったというのが僕の反省点です。以後気をつけたいと思います。

佐藤委員) 国からは来ていないのですか、副市長や何かで。来ていますよね。

矢野
ディレクター) 来ています。

佐藤委員) その人のインタビューやってもよかった。

矢野
ディレクター) 済みません、そこまで頭が回りませんでした。申しわけございません。

佐藤委員) 宮古とか釜石とか来ていますよね。

矢野
ディレクター) はい、来ています。

佐藤委員) あと、画面で見えたのです、公民連携のプロジェクト基本計画、日付 27 年の 1 月ではなかったですか。その後 1 年あったのですよね。やりとりはなかったのですか。商店街の人たちと市側との。計画書出て、意見交換して最終的にこうなったという流れで、それがずっと引きずって、このとおりのやりやれという感じだったのですか。

矢野
ディレクター) あの計画は、商店主さんたちの気持ちは一切入っていません。いまだに何も連絡はない状況です。勝手に市が進めた計画でありますから。その件に関しても、山崎会長も、何で呼んでくれないのかなと、呼んでくれたらいろいろと話をしたいのになと言っておりました。

佐々木局長) そのこのところが合意形成、住民との合意がとれていないというのを考えなかったというふうに我々が思い込んでいて、つくる方向に行ってしまったところなのですね。

矢野
ディレクター) はい。

長生常務) 今回の番組を通してなのですけれども、報道のスタンスとして中立というのは非常に難しく、要するに行政、政治家、権力を持っているのが圧倒的に強いわけで、そこで我々が真ん中に立つと、それは果たして中立なのかなと、公正、公平かなということもあるので、やっぱり報道のスタンスとしては、結果中立であればいいのですけれども、取材等含めてそのこのところが非常に難しいことでやっているということですね。

田口委員) 今のお話を聞いて思ったのは、中立か何かというのがあれですけれども、矢野ディレクターが例えばJチャンネルか何かにお出になって、報道ステーションではないですけれども、古舘さんみたいに取材した結果、僕の個人的感想としてはそう思うよとかというのは何かわかるような気がするのですけれども、番組としてナレーターにそれを言わせてしまうと、やっぱりかなり偏っているなというのを改めて思いましたけれどもね。

村田委員長) もちろん中立というのは難しいと思います、はっきり言って。ただ、その辺の真っすぐにぱっと終わるのではなく、やらなければならないことはやってほしいなという。中立だとおもしろくないと思う、はっきり言って。どっちかに偏るということはあり得るのだけれども、偏ってもいいけれども、それだけきちんとした内容があって偏っているのだったら、それはそれでいい番組だと思うのですけれども、やはりフォローするとか、取材ができないことがあったりとか、その辺は考えてもらわないといけない。

佐々木局長) 市長のやつも、直接取材を試みましたがけれども、現場に任せているのを知ったという部分しかなかったと。これを例えばコメント一言入れるだけでもありですよ。あるいは歩いてきているところに市長にぶら下がって、この件についてどう思いますかと、いや、これは現場に任せているからと、こういう感じで出ていくとか、そういうシーンでもいいからやっぱりトップの絵なり、トップの考えというのは映さなければいけないと思います。

そのだ委員) 田舎だとたたかれますかね。どうなのでしょうね。自分の意見として責任持って、自分が言うという形。私は、漫画を描くので、自分の意見として、例えば陸前高田の広い更地とか防潮堤建てているところが漫画だったら描けるし、言われたら答えるよという責任を持って腹をくくって描くのですけれども、例えば防潮堤というのは要らない派なのです、私は。ここまで波が来たって教えてくれていたのだから、ここからそっちは家建てなくていいじゃんというのを絵で表現して、ブログで連載しているのですけれども、そのぐらいのこともテレビ局だったらもっとみんなに知られるようなチャンスとかもすごくあるので、漫画だと読まない人は読まないですよ。だから、そういうことでもっと何か、出る杭は打たれるという怖いところがあるので、もうちょっと言いたいことがあったら言ってもいいと思うのです。言うちゃん

と舞台をきちんとつくった上でなので、全部背負えというわけではないのですけれども、すごく大事なことというのは言ってもいいような感じではないですかね、もう5年たっているから言えるのではないかなと思っていました。

村田委員長)

今難しいのは、国会でもそうだし、放送関係というの結構政府のやり玉に上がるようなことが多くなってきている。それで、実は全国番審がまた秋にあるのだけれども、そのタイトルを三浦さんと相談したのだけれども、三浦さんのほうからいい案、回答出てきたのですけれども、果たしてそのタイトルがいいか悪いか。要するに政府の介入を許すなというのが一つの案なのですけれども、ではそれを大上段でやって政府とけんかするかとなると、それが地方だって、大きいのですけれども、そういう小さいものというのは地方の中でもあると思うのです。だから、実に難しいと思うのです、テレビの制作のほうでも。その辺をやっぱりうまくいくぐらしないとだめなのですけれども、これはこうしなさいということにもならないし。だから、うまく映像で撮れるというか、さりげなく撮るとか、いろいろ方法はあると思うのです。その辺がこれからの課題になるのではないかなと思いますけれども、どうも今政府がたくさん圧力をかけてきていますね、結構。これをどうするかというのは、放送倫理委員会もあるだろうし、いろんなところがあるのだけれども、我々が云々することでもないのですけれども。

いずれ事務局で次回開催のほうをお願いいたします。

三浦事務局長)

次回の番組審議会は、4月27日水曜日11時からこの部屋でございます。課題は、先日放送してしまったのですけれども、「釜石に届いた吉報 20年ぶりのセンバツ 鋼鐵の意志 (はがねのこころ)」、これは21世紀枠で出た釜石高校を取り上げた番組です。これを課題とさせていただきます。本日DVDでお配りしてございますので、それをごらんになってまた貴重なご意見をいただければと思います。

あと、来年度の予定ということで、スケジュール案をお渡ししてございますけれども、冒頭でお話ししましたとおり、事務局の変更に伴いまして曜日というものを変更させていただいております。基本的に水曜日、最終の水曜日にさせていただければなと思っておりますので、ご理解いただければと思います。よろしく申し上げます。

村田委員長) 今まで木曜日だったのが今度水曜日になるということですね。では、きょうの番審は終了します。ありがとうございました。

7. 審議機関の答申または改善意見に対して措置

ご指摘頂いた点を、今後の番組作りの参考とすることとした。

8. 審議機関の答申または意見の概要の公表

朝日新聞岩手県版に審議概要を掲載。
本社受付に議事録を常備、閲覧に供す。
インターネットホームページに掲載。

9. その他の参考事項

特になし

10. 配布資料

◎ 4月単発番組編成予定表

◎ 3月岩手地区視聴率